

第118期 中間報告書

(平成25年4月1日～平成25年9月30日)



コーポレートメッセージ CORPORATE MESSAGE

モノづくりで未来を創る、クリモト

クリモトは、明治42年の創業以来、
お客様満足第一のモノづくりに徹して、社会のインフラ整備、
ライフラインや産業設備の拡充に貢献してきました。
これからも、100年で培った技術力にさらに磨きをかけ、
独自の技術と製品・サービスで社会の生命線と人々の暮らしを守り、
社会に貢献し続けたい。
そして、チャレンジ精神・創造力溢れるオンリーワン企業へ。
それが、クリモトの願いです。



企業理念 CORPORATE PHILOSOPHY

私達は水と大気と生命(いのち)の惑星、地球を大切にし、
人間社会のライフラインを守ります。

私達は「安心」という価値を提供し、社会と顧客の信頼に応えます。

私達は顧客の声をよく聴き、顧客から学び、独自の技術を深め、
新しい技術を加え、顧客にオリジナルな「最適システム」を提案します。

私達はモノづくりを通して、社員の幸せと人間社会の幸せを目指します。

私達はこれらの実践のため、コンプライアンス経営を徹底し、
継承と変革の調和を計り、個性と創意を尊重し、
企業の発展と社会への貢献に努めます。

中期3ヵ年計画も2ヵ年目を迎え、グループ一丸となって計画達成に向け邁進しています。

■ 第118期中間期の概況をご報告いたします。

株主の皆様におかれましては、平素より当社グループの事業運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループの第118期中間期（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）の事業概要をとりまとめましたので、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、いわゆるアベノミクスによる政策効果をはじめ、東京オリンピックの招致決定なども含めて景気回復基調が顕在化してきておりますが、一方では円安によるコスト増の影響や、ユーロ圏の景気後退深刻化、中国の成長減速等の世界経済の影響もあり、経済界では依然不透明感が続く中で推移いたしました。

このような状況の中で、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は化学装置部門において、大型工物件の売上が減少しましたが、鉄管部門で補正予算編成に伴う発注が堅調であったこと、化成品部門で電力、農水向け製品の出荷が増加したことなどにより、売上高は前第2四半期連結累計期間比958百万円増収の46,599百万円となりました。

利益面では、「機械システム事業」における減収の影響などにより、営業利益

代表取締役社長
福井 秀明

は1,962百万円（前第2四半期連結累計期間比673百万円減益）、経常利益は1,590百万円（前第2四半期連結累計期間比682百万円減益）となりました。四半期純利益は、特別損失の減少および繰延税金資産の積み増しに伴う法人税等調整額を戻し入れたことにより、1,831百万円（前第2四半期連結累計期間比261百万円増益）となりました。

■ 平成25年度と中期経営計画

既に当社ウェブサイトなどでも公開しておりますとおり、当社グループは平成24年度を起点とする中期3ヵ年計画を推進しておりますが、当平成25年度も前年度に引き続き第1四半期から純利益の黒字化を達成することができました。これも株主の皆様はじめ、ステークホルダーの方々によるご支援の賜物と感謝しております。

また、平成25年8月より、ビルの床材として使用するハーフプレキャスト製床板等に関して高い技術力を保有する日本カイザー株式会社が新たに当社グループの一員となりました。今後も、「国際社会の要請に応える企業を目指して」という長期ビジョンのもと、海外を含む新たな事業領域への展開を加速化することにより、安定的に収益を上げながら新たな事業収益の芽吹きを実感できるような魅力を感じさせる会社となるべく、クリモトグループ一丸となって計画達成に向け邁進してまいります。

■ 配当について

なお、当社は、株主の皆様へ安定的・継続的に配当を実施することを基本方針といたしております。

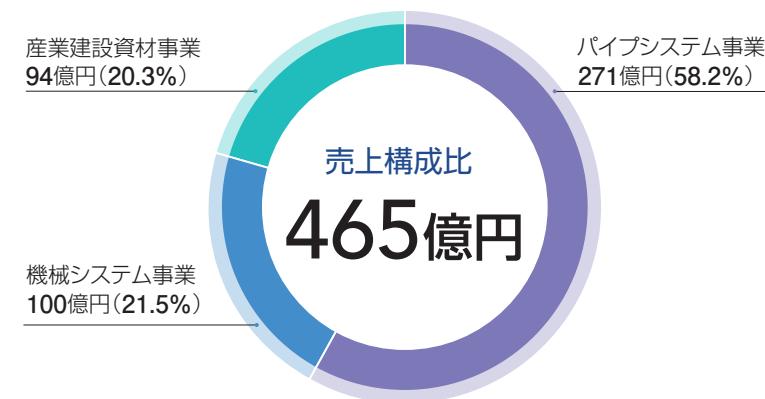
この度、当期の業績および経営環境等を総合的に判断いたしました結果、当期の配当につきましては、中間・期末とも1株あたり2円、通期として1株あたり4円の配当とし、安定配当に努めてまいります。

当社グループといたしましては、株主の皆様のご期待に沿うべく、今後も総力をあげてグループの持続的成長を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、これからもクリモトグループの活動により一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

■ 事業の概況

BUSINESS GENERAL CONDITION



「パイプシステム事業」は、売上高については、バルブ部門において、電力・鉄鋼分野や海外案件の売上が減少となりましたが、鉄管部門において、補正予算編成に伴う発注が堅調であったことなどにより、前第2四半期連結累計期間比2,045百万円増収の27,134百万円となりました。

営業利益については、バルブ部門で減収による減益に加え、売上構成の変化に伴う利益率の低下があったものの、鉄管部門の増収による増益などにより、前第2四半期連結累計期間比8百万円増益の1,524百万円の営業利益となりました。

「機械システム事業」は、売上高については、化学装置部門において、大型工物件の売上が減少したことなどにより、前第2四半期連結累計期間比2,476百万円減収の10,005百万円となりました。

営業利益については、減収による減益などにより、前第2四半期連結累計期間比798百万円減益の16百万円の営業損失となりました。

「産業建設資材事業」は、売上高については、化成品部門において、電力、農水向け製品の出荷増、建材部門において、高速道路向け消音製品の前倒し出荷に加え、当第2四半期連結会計期間において日本カイザー株式会社を連結子会社化したことなどにより、前第2四半期連結累計期間比1,389百万円増収の9,459百万円となりました。

営業利益については、増収による増益などにより、前第2四半期連結累計期間比222百万円増益の378百万円の営業利益となりました。



鉄管事業部

人々の暮らしを地下で支える水道管やガス管。身近な暮らしの場面から大きな役割を担うこれらのダクタイル鉄管は、大都市・郊外・農村などあらゆる所で活躍しております。

営業品目

ダクタイル鉄管（直管、異形管、接合部品）、耐摩耗管 ほか



バルブ事業部

浄水場などの官需分野から、発電所・製鉄所・プラントなどの民需分野、海外分野向けのバルブを多数取り扱っております。

営業品目

バタフライ弁、ソフトシール仕切弁、高炉用弁類 ほか



建材事業部

幅広い製品ラインナップと迅速なデリバリーで皆様の期待にお応えしております。

営業品目

スパイラルダクト、各種フレキシブルダクト、円筒型枠用ワインディングパイプ、ワインディングシース、中空スラブ、耐震関連製品、梁貫通孔補強筋（スーパーハリーZ）、消音・騒音対策事業 ほか



化成品事業部

FRPが持つ多機能で自由度の高い特性を活かし、真に信頼される製品づくりを目指して、広く社会基盤の整備に貢献してまいります。

営業品目

強化プラスチック複合管（FRPM管）、強化プラスチック複合板（FRPM板）、FRPコア、各種合成樹脂成形品 ほか



機械事業部

さまざまな業界の製造ラインを支える産業設備。いわば製品を世に送り出す一翼を担っています。また単一機械だけでなくラインすべての設計など、トータルエンジニアリングでも社会に貢献してまいります。

営業品目

微粉砕機、分級機、造粒機、混合・混練・分散機、乾燥機、焼成機、鍛造プレス、ベンディングロール ほか



化学装置事業部

クリモトグループで培った単品機器技術と各種プラントのエンジニアリング技術を集結し、化学・石油化学製造設備等の総合的なエンジニアリングサポートサービスの提供をおこなってまいります。

営業品目

プラントエンジニアリング事業、各種プラントの設計・製作・調達・建設・試運転およびメンテナンス ほか



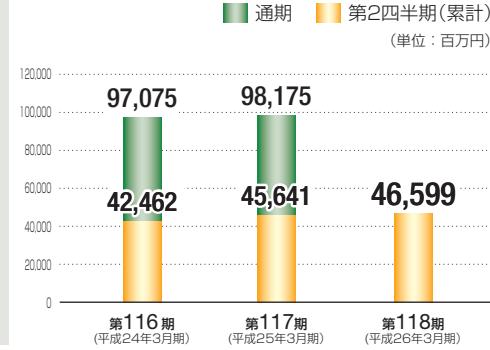
素形材エンジニアリング事業部

破砕技術・材料技術等の固有技術を活かした素形材エンジニアリング事業部の商品群は、骨材資源業界・鉄鋼業界をはじめとする各種産業分野にて活躍しております。

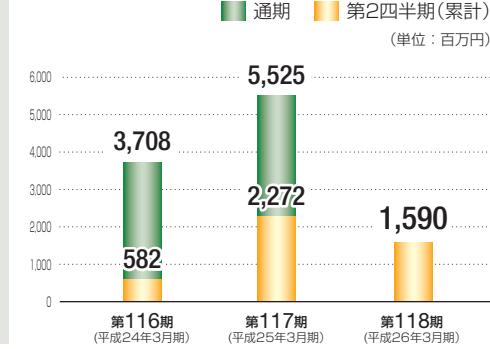
営業品目

破砕機、搬送機械、耐熱・耐摩耗鋳物、耐摩耗ポンプ、鉄道用ブレーキディスク ほか

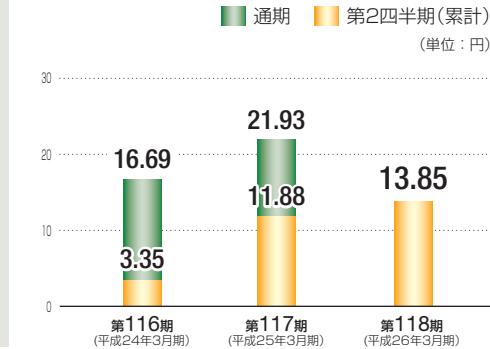
売上高



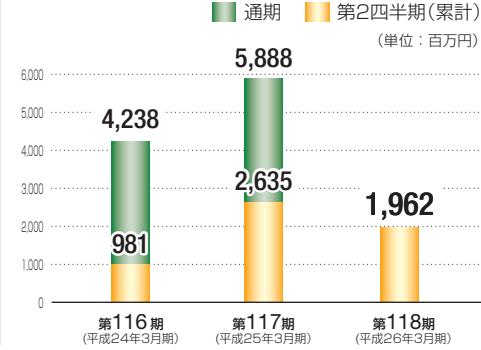
経常利益



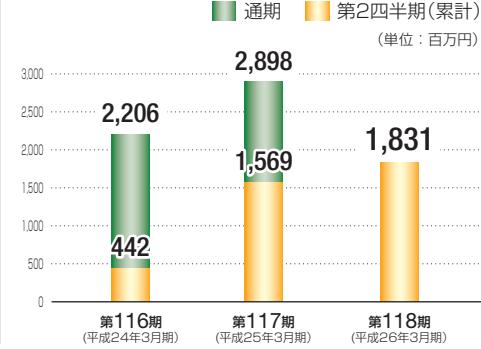
1株当たり
四半期(当期)
純利益



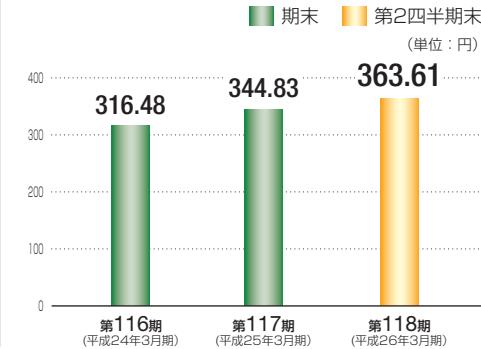
営業利益



四半期(当期)
純利益



1株当たり
純資産



■ 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成25年9月30日現在)	前連結会計 年度末 (平成25年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	70,507	79,075
固定資産	51,915	50,858
有形固定資産	36,127	36,257
無形固定資産	533	196
投資その他の資産	15,254	14,403
資産合計	122,423	129,934
(負債の部)		
流動負債	57,397	66,503
固定負債	16,622	17,524
負債合計	74,020	84,028
(純資産の部)		
株主資本	45,852	44,288
資本金	31,186	31,186
資本剰余金	6,959	6,959
利益剰余金	8,097	6,530
自己株式	△ 390	△ 388
その他の包括利益累計額	2,214	1,298
その他有価証券評価差額金	2,214	1,298
少数株主持分	336	319
純資産合計	48,403	45,905
負債純資産合計	122,423	129,934

■ 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)
売上高	46,599	45,641
売上原価	35,383	34,173
売上総利益	11,216	11,467
販売費及び一般管理費	9,254	8,831
営業利益	1,962	2,635
営業外収益	298	278
営業外費用	670	641
経常利益	1,590	2,272
特別利益	-	7
特別損失	0	415
税金等調整前四半期純利益	1,590	1,864
法人税、住民税及び事業税	87	125
法人税等調整額	△ 348	153
法人税等合計	△ 260	279
少数株主損益調整前四半期純利益	1,850	1,584
少数株主利益	19	14
四半期純利益	1,831	1,569

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	518	3,072
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,129	△ 682
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,822	△ 2,729
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△ 45
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 3,428	△ 384
現金及び現金同等物の期首残高	19,089	19,646
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,660	19,262

株式の状況 (平成25年9月30日現在)

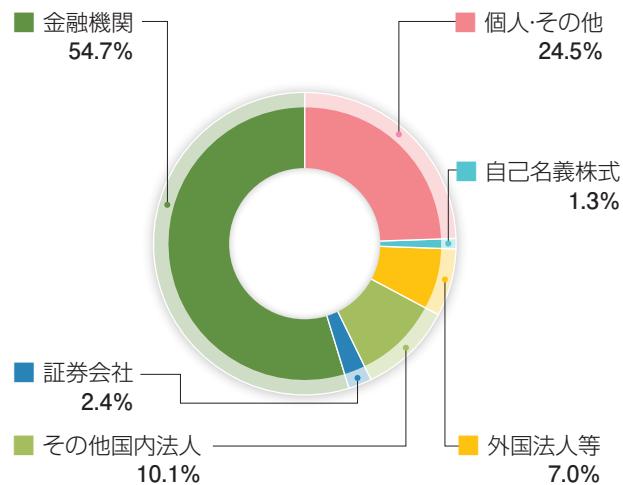
発行可能株式総数	393,766,000株
発行済株式の総数	133,984,908株
単元株式数	1,000株
株主数	10,149名

大株主 (上位10名) (平成25年9月30日現在)

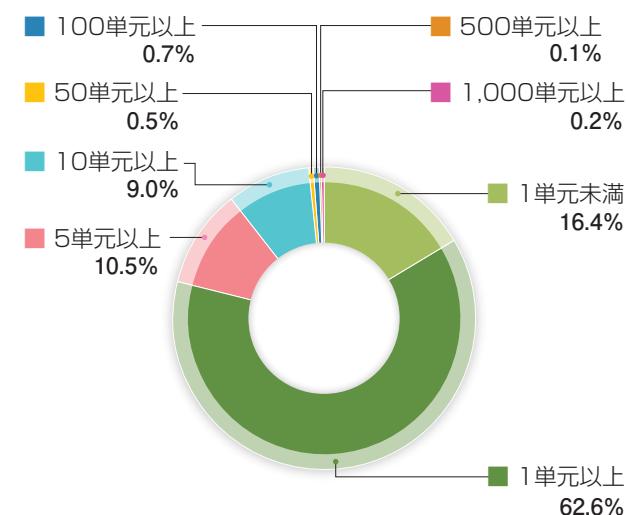
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	14,292	10.8
太陽生命保険株式会社	12,090	9.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	8,159	6.1
日本生命保険相互会社	7,669	5.8
株式会社りそな銀行	4,440	3.3
株式会社みずほ銀行	3,623	2.7
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	3,200	2.4
岩谷産業株式会社	2,898	2.1
株式会社三井住友銀行	2,720	2.0
富士火災海上保険株式会社	2,138	1.6

(注) 持株比率は自己株式 (1,791,533株) を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況 (平成25年9月30日現在)



所有株式数別株主分布状況 (平成25年9月30日現在)



会社の概要 (平成25年9月30日現在)

社名	株式会社 栗本鐵工所
英文社名	Kurimoto, Ltd.
創立	明治42年2月2日
設立	昭和9年5月10日
資本金	31,186,098,159円
従業員数	1,376名 (単体) 1,976名 (連結)

役員 (平成25年9月30日現在)

代表取締役社長	福井秀明
専務取締役	串田守可
取締役	岡田博文
取締役	澤井幹人
取締役	新宮良明
社外取締役	玉出善紀
常勤監査役	江村利次
常勤監査役	泉正三
社外監査役	赤松秀世
社外監査役	小林倫憲
常務執行役員	天谷光郎
執行役員	斎藤直史
執行役員	屋地幹生
執行役員	村田実
執行役員	小島眞也
執行役員	生田伸高
執行役員	菊本一晴
執行役員	近藤一久
執行役員	福井武久
執行役員	佐藤尚人

クリモグループ

国内関係会社

- クリモロジスティクス株式会社
- 栗本商事株式会社
- ヤマトガワ株式会社
- 北海道管材株式会社
- 株式会社本山製作所
- 株式会社佐世保メタル
- 株式会社ケイエステック
- 八洲化工機株式会社
- 日本カイザー株式会社
- 株式会社クリモビジネスアソシエイツ

海外関係会社

- 栗光股份有限公司
- 寧波東光五金有限公司
- 栗鉄(上海)貿易有限公司
- Readco Kurimoto, LLC.
- Kurimoto USA, Inc.
- KURIMOTO (PHILIPPINES) CORPORATION

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会	毎年6月に開催します。
剰余金の配当の基準日	
期末配当	3月31日
中間配当	9月30日
定時株主総会の基準日	3月31日
	その他必要があるときは、予め公告して基準日を定めます。

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関
事務取扱場所
郵便物送付先

みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
168-8507

東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問い合わせ先 ☎ **0120-288-324** (フリーダイヤル)
受付時間は9:00~17:00 (土日祝日を除く)

特別口座に関する事務取次所
みずほ証券株式会社本店、全国各支店および営業所
プラネットブース (みずほ銀行内の店舗)
みずほ信託銀行株式会社本店および全国各支店

公告方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。
なお、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、大阪市において発行する産業経済新聞に掲載いたします。
ホームページ
<http://www.kurimoto.co.jp>

単元株式数 1,000株
上場証券取引所 東京証券取引所
証券コード 5602

ホームページで最新情報を即座に発信



<http://www.kurimoto.co.jp>

■ 1,000株未満の株式をお持ちの株主様へ

当社の単元株式数(売買単位)は、1,000株です。

一方、単元未満株式(1~999株)につきましては、証券市場で売却することはできませんが、当社に対して買取を請求して売却できる制度をご利用いただけます。お手続き等の詳細は、お取引の証券会社もしくは、上記のみずほ信託銀行までお問い合わせください。

■ 株式に関するお問い合わせ先

- ・証券会社に株式をお預けの株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金の受け取り方法の変更等、株式に関する各種お手続きは、お取引の証券会社にお問い合わせください。
- ・証券会社に株式を預けておられない株主様の場合、当社がみずほ信託銀行に開設しております「特別口座」にて株式を管理しています。特別口座の株式は、単元未満株式の買取請求を除き売買できませんので、証券会社に株主様名義の口座を開設し、株式を振替されることをお勧めいたします。お手続き等の詳細は、特別口座の口座管理機関である、上記のみずほ信託銀行へお問い合わせください。
- ・未払配当金のみ、みずほ銀行全国本支店でもお取扱いいたします。